

簡」関係文献は8に掲げる三冊で、二〇〇〇年度をもつて報告を完了した。

8 関係文献

群馬・前橋城遺跡（第一九号） まえばしょじょう

1 所在地	群馬県前橋市大手町
2 調査期間	第五次調査 一九九四年（平6）四月～一〇月
3 発掘機関	群馬県教育委員会
4 調査担当者	赤山容造・巾 隆之・相京建史・桜岡正信・
5 遺跡の種類	井川達雄・藤巻幸男・片野雄介・高島英之ほか 集落跡・城跡
6 遺跡の年代	九世紀～一九世紀
7 木簡の釈文・内容	

発掘調査は一九九二年一月から一九九六年五月まで七次にわたりて行なわれ、木簡は一九九三年四月から一〇月まで行なわれた第三次調査で検出された一号井戸から一点（本誌第一九号）、一九九四年四月から一〇月まで行なわれた第五次調査で検出された七号井戸から二点（本誌第一七号）、一五号井戸から一点（本誌第一九号）、六九号井戸から七点（本誌第一九号）の計一点が出土している。紀年銘を有するものは一点も無いが、遺構の状態や伴出遺物などからいざれも近世のものと考えられる。

今回報告するのは、第五次調査で検出された六九号井戸から出土した木簡のうち、その後の整理作業の中で確認され、本誌で未報告

であつた六点についてである。

木簡は確認面から深さ二、四m付近の人為的埋土から出土した。

道學（林有澤）——中華書局影印——增補卷之三——增補卷之三

(239) × (36) × 5 081

(2) (1)
• [摂河泉力]
[埼埼城城力]
[]

6

強力

(4)

二

(5) []

• 11

—

•

(115) × (49) × 5 081

T100 6\>(04)\>C1

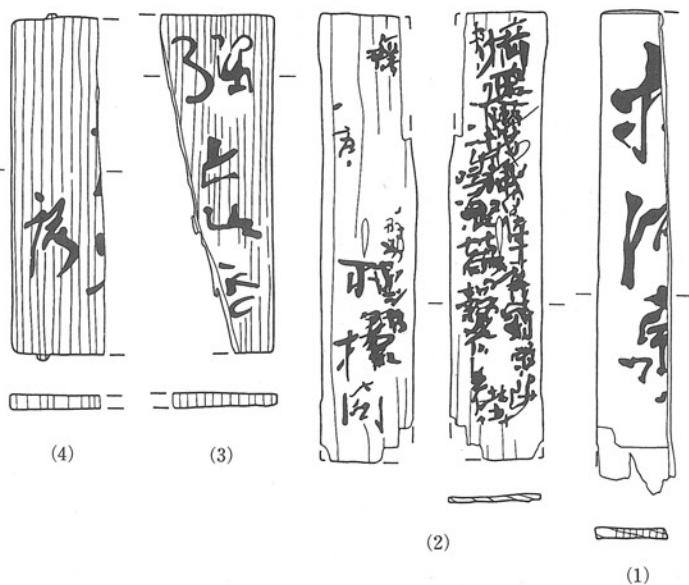
101/100

168×(56)×8 081

222×46×4 011

今回報告するものには断片が多く、木簡の内容や用途・機能が判るものはほんんどない。(1)は下端部及び右側面部が欠損。裏面は未調整である。文字は、現状で表面に三文字分確認できる。(2)は、左右側面及び下端部の一部が欠損しているが、概ね原形をとどめている。

る。習書で、多数の文字を重書する。近世の習書木簡は極めて珍し



8

群馬県教育委員会「前橋城遺跡Ⅱ 群馬県庁舎建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」（一九九九年）
（高島英之）